

令和5年度 3学年

ツラバス

科目内容紹介



長野県蘇南高等学校

総合学科

3年 組 番 氏名

教科	国語	科目名	現代文B	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	文理系列選択者で、2年次に「現代文B」を修得している者全員			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系	<input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技能	文章を読んで、構成、展開、要旨、情景、心情などを的確にとらえ、その論理性を評価し、表現を味わうことを通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて知識を活用して思考する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。					
使用教科書	新 高等学校現代文B(明治書院)		使用副教材	・級別漢字の総仕上げ(中部日本教育分科会) ・LT現代文2(浜島書店) ・ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)			

	前 期	時間	後 期	時間
	年間学習計画	「物の見えたる光」中野孝次	8	「ミロのヴィーナス」清岡卓行
「『世間』とは何か」阿部謹也 第1回考査		8	「城崎にて」志賀直哉 第4回考査	8
「白紙」高橋源一郎		4	「遠近法の誕生」橋爪大三郎	6
「小説とは何か」三島由紀夫 第2回考査		6	文学史・教養 学年末考査	8
「宇宙では『上』も『下』もない？」小浜逸郎		8		
「迷う犬」別役実 第3回考査		6		
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	毎時間、漢字小テストを実施するので、予習・復習をきちんとすること。 教科書の文章は授業でも朗読するが、何度も読む方が内容も頭に入り、語彙も身につくので、家庭学習をすること。 わからない単語は辞書で調べ、語彙を増やすこと。 黒板の板書をきちんとノートに取り、復習をすること。	

教科	国語	科目名	古典B	年次	3年	単位数	3
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	文理系列選択者で、四年制大学を志望している者。2年次に「古典A」を履修していることが望ましい。			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系	<input type="checkbox"/> 教養	<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理	<input type="checkbox"/> 経ビ	<input type="checkbox"/> もの	<input type="checkbox"/> 全員

学習目標	古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典についての理解や関心を深めることによって人生を豊かにする態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技能	人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める力を身につける。					
	思考・判断・表現	古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方と関わるなかで、論理的に考え、知識を活用して思考する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して未来の自分を創造する力を身につける。					
使用教科書	高等学校 改訂版 標準古典B (第一学習社)		使用副教材	<ul style="list-style-type: none"> ・新修 古典文法 二訂版(京都書房) ・重要古文単語315 三訂版(桐原書店) ・ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店) 			

	前 期		時間	後 期		時間
	年間学習計画	大鏡		20	更級日記	
		第1回考査		枕草子		15
土佐日記			10		第4回考査	
蜻蛉日記			10	源氏物語		20
		第2回考査				
和泉式部日記			10		学年末考査	
		第3回考査				
	紫式部日記		10			
合 計						105

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	毎時間、古単語の小テストを実施するので、予習・復習をきちんとすること。古典の文章は、授業でも朗読するが、自分で何度も読む方が、内容も頭に入り、語彙も身につくので、家庭学習をすること。予習の段階で、助動詞のチェック、自分で口語訳をしておくだけで、授業の内容がよくわかるので行うこと。わからない単語は辞書で調べ、語彙を増やすこと。黒板の板書をきちんと取り、復習をすること。	

教科	国語	科目名	探究国語	年次	3年	単位数	2	
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	文理系列選択者で、大学への進学を考えている者。				
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系	<input type="checkbox"/> 四大理系	<input type="checkbox"/> 教養	<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理	<input type="checkbox"/> 経ビ	<input type="checkbox"/> もの	<input type="checkbox"/> 全員

学習目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技能	文章を読んで、構成、展開、要旨、情景、心情などを的確にとらえ、その論理性を評価し、表現を味わうことを通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	文章を読んで批評することを通して、人間、社会、自然などについて知識を活用して思考する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。					
使用教科書	LT現代文3(浜島書店) LT現代文4(浜島書店)			使用副教材	なし		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	遊びの効用 デジタル大航海時代 手作りの味 脳の機能と発達 新しい様式への発展 第1回考査	10	言葉の切り開く世界 味わい楽しむ暮らしの余白 妻の意外な返答 社会が生み出すアイロニー	15
意識とは何か 淡い喜び 美術の生存を賭けた闘い 李白の詩と人生 場所に根ざした建築 第2回考査	10	自己を眺める 文芸の芸術的価値 伝統の形成 新しい価値を求めて	20	第4回考査
紙の本を読むということ 「文明」の建設 小さくて大きな背中 なぜ散る桜なのか 第3回考査	15	堅固な決心 生きた音楽を語る 日本語における「否定」 「私」の認識	学年末考査	
合 計				70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	授業の中で演習を行うため、一問を大切にし、集中して取り組むこと。	

教科	国語	科目名	古典講読	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	誰でも選択可能。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養		<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技能	人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深める力を身につける。					
	思考・判断・表現	古典を通して先人のものの見方、感じ方、考え方と関わるなかで、論理的に考え、知識を活用して思考する力を身につける。					
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して未来の自分を創造する力を身につける。					
使用教科書	なし			使用副教材	・ビジュアルカラー国語便覧(大修館書店)		

	前 期	時間	後 期	時間
	年間学習計画	古語辞典の引き方	3	「浦島太郎」
助動詞		7	・地域ごとに伝わっている物語の調査と発表	
「浦島太郎」			「かぐや姫」と「竹取物語」	5
・現代語訳		10	「自分が気になる古典を調べる」	15
・現代と古文の違い		5		
・古文版の絵本		10		
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	授業態度(発表や授業への取り組み方など)(70%)・課題提出(30%)による。
	思考・判断・表現	発表、課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	辞書をひけるようにする。 テストで評価しないぶん、授業中の取り組みによる課題などで評価をするため、毎時間を大切にする。	

教科	国語	科目名	教養国語	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	誰でも選択可能。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員				

学習目標	多様な表現を学び、自発的に表現する力の向上をはかるとともに、語彙を豊かにし、ことばに対する興味関心を高めることで、正確に読解する力を伸ばして、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。					
目指す資質・能力	知識・技能	実社会に必要な、人間と世界についての豊かな知識や技能を身につける。				
	思考・判断・表現	実社会で必要となることを見据えて、知識を活用して思考する力を身につける。				
	主体的に学習に取り組む態度	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者をリスペクトして協働する力を身につける。				
使用教科書	・国語常識ベーシック(数研出版)		使用副教材	なし		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	国語常識ベーシック 基礎編1～6	6	国語常識ベーシック 演習編9～16	8
漢字検定の対策	5	インタビューをして新聞にまとめる	10	
	第1回考査		第4回考査	
国語常識ベーシック 基礎編7～12	6	国語常識ベーシック 演習編17～20	7	
口語文法と敬語	10	ことわざカルタ	10	
	第2回考査		学年末考査	
国語常識ベーシック 演習編1～8	8			
	第3回考査			
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	定期考査(70%)・課題提出(30%)による。	
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。	
学習にあたっての注意とアドバイス	提出期限までに課題を提出する。 知っている言葉の語彙を増やす。 復習をする。		

教科	国語	科目名	国語表現	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	誰でも選択可能。			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系		<input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備	<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員			

学習目標	国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、言語感覚を磨き、進んで表現することによって国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。		
目指す資質・能力	知識・技能	実社会に必要な、人間と世界についての豊かな知識や技能を身につける。	
	思考・判断・表現	他者に考察の核心を伝えることを通して、自分の思いや考えを広げたり深めたりする力を身につける。	
	主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して未来の自分を創造する力を身につける。	
使用教科書	高等学校 改訂版 国語表現 (第一学習社)	使用副教材	

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	国語表現ガイダンス		2	小説の続きを考える
話し言葉を書き言葉に直す		4	キャッチフレーズを付ける	6
原稿用紙の使い方を確認する		2	写真を撮って俳句を詠む	6
主張を明確に伝える		10	年賀状を出す	8
魅力的な話し方を学ぶ	第1回考査	8	取扱説明書を作る	8
テーマ作文を書く	第2回考査	8		
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 定期考査の得点の合計、もしくは、定期考査の得点と提出物点の合計が平均点の半分以上であること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	定期考査(70%)・課題提出(30%)による。	
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)による。	
学習にあたっての注意とアドバイス	表現の授業なので、自分から主体的に、書くこと、話すことをしないと評価できないため、積極的に取り組むこと。 授業内で課題が終わらない場合、居残り、家庭学習などを指示するので、必ず提出すること。 他の国語の科目に比べ、評価点における平常点の割合が高いので、課題は必ず提出すること。		

教科	公民	科目名	政治経済	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	倫理との同時選択			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	現実社会の諸課題の解決に向けて探究するための手掛かりとなる概念や理論などについて理解するとともに、諸資料から人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	現実社会に見られる複雑な課題を把握し、身に付けた判断基準を根拠に構想する力や、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現のために、学んだことが未来につながることを創造する力を身に付ける。					
使用教科書	最新政治・経済 新訂版(実教出版)		使用副教材	なし			

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1編 現代の政治	第2編 現代の経済				
第1章 現代国家と民主政治		10	第1章 現代の経済社会		10	
第2章 日本国憲法と基本的人権	第1回考查	10	第2章 現代の日本経済と福祉の向	第4回考查	10	
第3章 日本の政治制度と政治参加	第2回考查	5	第3章 現代の国際経済		10	
第4章 現代の国際政治		5				
第5章 日本の平和主義と国際平和	第3回考查	5	第3編 現代社会の諸課題	学年末考查	5	
			合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考查を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考查・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考查・課題提出やアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みやアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業を大切にすること。 ・世の中で起きていることに興味を持ち、自ら知りたいという積極性を大事にすること。 ・新聞やニュースを見るようにすること。 	

教科	公民	科目名	倫理	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修・ <input type="checkbox"/> 選択		選択条件	政治経済との同時選択			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系・ <input type="checkbox"/> 四大理系・ <input type="checkbox"/> 教養・ <input type="checkbox"/> 就職準備			<input checked="" type="checkbox"/> 文理・ <input type="checkbox"/> 経ビ・ <input type="checkbox"/> もの・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	現代の諸課題を捉え、人間としての在り方や生き方についてより深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能をつける。					
	思考・判断・表現	上記を踏まえて思索を深め、自ら問いを立てて探究する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	人間としての在り方や生き方に関わる事象や課題について主体的に追究し、他者をリスペクトして協働しつつ、学んだことが未来につながることを想像する力。					
使用教科書	高等学校 現代倫理 新訂版(清水書院)			使用副教材	なし		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1編 現代に生きる自己の課題		5	第4節 幕末から近代国家への移行		10
第2編 人間の生き方と社会の在り方				第5節 近代日本の模索		
第1章 哲学と宗教の源流				第6節 戦争の時代とその後日本		
第1節 古代ギリシアの思想	第1回考査			第3章 現代社会への道程		25
第2節 唯一神の宗教				第1節 人間の尊厳		
第3節 古代インド思想と仏教				第2節 近代科学と人間	第4回考査	
第4節 中国思想	第2回考査			第3節 民主社会と幸福		
第2章 日本の思想の歩み				第4節 自己実現と社会参加		
第1節 日本の自然と日本神話			15	第5節 新しい時代への扉	学年末考査	
第2節 仏教の需要と展開						
第3節 近世の道徳	第3回考査					
合 計						70

履修要件	1. 上記の教材や必要に応じて指示された物を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が規定の授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記、履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を求められた場合は期限内に済ませること。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。(50%程度)
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。(30%程度)
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、ルーブリックおよびアセスメント(振り返りシート)による。(20%程度)
学習にあたっての注意とアドバイス	・形に見えないことを学んでいくことが多いので、自分の頭の中で「考える」ことが重要になってきます。 ・欠席をせず、毎時間の授業のなかで小さなことでもよいので新たな発見や理解を積み重ねてください。	

教科	地理歴史	科目名	地理B	年次	3年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	世界の諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の地域的特色や課題などを理解するとともに、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	系統地理的、地誌的に、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、知識を厚揚してす思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に探究し、学んだことが未来につながることを想像する力を養う。					
使用教科書	新編 詳解地理B 改訂版(二宮書店)			使用副教材	最新地理図表 GEO (第一学習社)		

年間学習計画	前期		時間	後期		時間
	第Ⅰ編 地図と地理的技能	第1章 地理情報と地図	10	第3章 人口と村落・都市	第1節 人口	10
	第1節 世界観の変化と地図		第2節 村落・都市		10	
	第2節 地球儀と世界地図		第4章 生活文化と民族・宗教			
	第3節 地理情報の地図化					
	第2章 地図と地域調査	25	第Ⅲ編 現代世界の地誌的考察			
	第1節 地図の活用		第1章 現代世界の地域区分	第4回考査	10	
	第2節 身近な地域の調査	第1回考査	第2章 現代世界の諸地域		40	
	第Ⅱ編 現代関あの系統地理的考察		第1節 中国			
	第1章 自然環境	17	第2節 韓国			
	第1節 地形		第3節 東南アジア			
	第2節 気候		第4節 インド			
	第3節 自然と生活		第5節 西アジア・中央アジア			
	第4節 環境問題	第2回考査	第6節 アフリカ			
	第2章 資源と産業	18	第7節 EU			
	第1節 農林水産業		第8節 ドイツとポーランド			
	第2節 資源・エネルギー		第9節 ロシア			
	第3節 工業		第10節 アメリカ			
	第4節 流通と消費	第3回考査	第11節 ブラジル	学年末考査		
			合 計		140	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出やアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みやアセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業を大切にすること。 ・共通テストを見据え、問題演習を行うことがある。 ・また、四大理系進学希望者は参考書や一問一答などの購入を早めに考えること。 	

教科	地理歴史	科目名	日本史B	年次	3年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	文理系列の者で、2年次に「日本史A」を履修していることが望ましい。			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系	<input type="checkbox"/> 教養	<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理	<input type="checkbox"/> 経ビ	<input type="checkbox"/> もの	<input type="checkbox"/> 全員

学習目標	我が国の歴史の展開を、地理的な条件や世界の歴史と関連付けて総合的にとらえて理解し、諸資料から我が国の歴史に関する、多面的・多角的な考察や深い理解を通じ、国際社会に主体的に生きる有為な形成者となるための能力や資質を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	諸資料に基づいて歴史が叙述されていることや、各時代の特色を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能をつける。					
	思考・判断・表現	上記を踏まえ、必要に応じて各時代の国際環境とも関連付けながら、学んだ知識を活用して思考し他者に考察の核心を伝える力。					
	主体的に学習に取り組む態度	現代の日本および自身の諸環境とのつながりや、物事の因果関係を意識し、学びに真摯に取り組む力。					
使用教科書	高校日本史B 新訂版(実教出版)		使用副教材	歴史資料館 日本史のライブラリー(とうほう) ※2年次に「日本史A」を履修した者は継続使用			

	前 期	時間	後 期	時間
年間学習計画	第1編 原始・古代 文化と国家の形成 旧石器・縄文・弥生時代の社会と文化 小国分立から倭国、ヤマト政権の形成 古代国家の確立	15	室町時代の東アジアと日本 南北朝・北山文化、室町時代の経済 惣村と一揆、室町時代の衰退と戦国動乱 戦国時代の政治・社会、東山文化	
	飛鳥時代の政治と文化 第1回考査 古代国家の形成、律令の成立、白鳳文化 奈良・平安時代の政治と文化 第2回考査	25	第3編 近世 統一政権の成立	20
	国家仏教と天平文化 第2回考査 摂関政治の確立、国風文化の成立		大航海時代と日本、織田信長の天下布武 豊臣秀吉の全国統一と対外政策、桃山文化 江戸幕府の成立、幕府と藩の支配体制 鎖国と四つの口、身分制と村・町の支配	
	第2編 中世 中世社会の成立	30	幕藩体制の展開 第4回考査 幕府政治の転換、産業の発達 交通・都市の発達、町人文化・学問の発達 享保の改革と田沼の政治 商品経済の発達と社会の変化	25
	中世社会の土地制度、武士団の成立 院政、平氏の繁栄と治承・寿永の乱 鎌倉幕府、承久の乱と執権政治 商工業の発達、蒙古襲来と鎌倉幕府の動揺 鎌倉仏教・文化、北条氏の専制と幕府滅亡 中世社会の展開 第3回考査	25	蘭学と国学の普及 学年末考査 寛政の改革と異国船の接近 大塩の乱と天保の改革、民衆文化	
建武の新政・南北朝内乱、室町幕府の確立		合 計		140

履修要件	1. 上記の教材や必要に応じて指示された物を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が規定の授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記、履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を求められた場合は期限内に済ませること。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。(50%程度)
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。(30%程度)
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、ルーブリックおよびアセスメント(振り返りシート)による。(20%程度)
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業が基本になります。欠席をせず、毎時間の授業のなかで小さなことでもよいので新たな発見や理解を積み重ねてください。 ・教科書の内容を網羅することは難しいので、わからないことは自分で調べたり質問したりしてください。 ・共通テストなど、日本史Bを受験科目の1つとして使おうとする場合は、日本史A(近現代)の範囲を含めて個人個人で、用語集や問題集などの購入をし、自学自習もおこなっていくことが必要になってきます(冊子の紹介はする予定です)。 	

教科	数学	科目名	数学Ⅲ	年次	3年	単位数	5
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	2年次に「数学Ⅱ」を履修していること。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	平面上の曲線と複素数平面、極限、微分法及び積分法についての理解を深め、知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを積極的に活用する態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	初等解析学の概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。					
使用教科書	新編 数学Ⅲ(数研出版)			使用副教材	4STEP(数研出版)		

	前 期		時間	後 期		時間
	年間学習計画	第1章 複素数平面	第1回考査	25	第6章 微分法の応用	
第2章 式と曲線			30	導関数の応用		
2次曲線				いろいろな応用	第4回考査	
媒介変数表示と極座標				第7章 積分法とその応用		45
第3章 関数		第2回考査	15	不定積分		
第4章 極限			35	定積分		
数列の極限				積分法の応用	学年末考査	
関数の極限		第3回考査				
第5章 微分法			25			
導関数						
いろいろな関数の導関数						
合 計						210

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。						
修得要件	以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度）						
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。					
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。					
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる					
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・予習よりも復習のほうが大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。 ・以下の学習をすると力がついていきます。 <ol style="list-style-type: none"> ①「公式を覚える」のために”例”や”例題”を解く ②「公式の使い方」を増やすために”例題”を解く ③「入試に向けた基本的な解法を覚える」ために”応用例題”や”章末問題”を解く 						

教科	数学	科目名	数学B	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必履修 ・ <input type="checkbox"/> 選択		選択条件	「数学A」および「数学Ⅱ」を履修していることが望ましい。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	確率分布と統計的な推測、数列又はベクトルについて理解し、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	統計学や代数学の基本的な概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。					
使用教科書	改訂版 新高校の数学B(数研出版)		使用副教材	ポイントノート 数学B(数研出版)			

	前 期	時間	後 期	時間		
年間学習計画	第1章 ベクトル	35	第2章 数列	35		
	有効線分とベクトル		数列			
	ベクトルの和、差		等差数列			
	ベクトルの実数倍		等比数列		第4回考査	
	ベクトルの成分		和の記号 Σ			
	ベクトルの内積		第1回考査		階差数列	
	内積の性質		第2回考査		漸化式と一般項	
	位置ベクトル		第3回考査		数学的帰納法	学年末考査
	ベクトルの性質					
	空間の座標					
空間ベクトル						
空間ベクトルの内積						
			合 計	70		

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度）	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・予習よりも復習のほうが大切なため、その日に学習した練習問題を家で毎日1問以上解こう。 ・以下の学習をすると力がついていきます。 ①「公式を覚える」のために”例”や”例題”を解く ②「公式の使い方」を増やすために”例題”を解く	

教科	数学	科目名	教養数学	年次	3年	単位数	3
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員				

学習目標	企業・公務員試験・各種入学試験の内容に触れることで、小学校算数、中学校数学、数学Ⅰ・Ⅱの基礎学力を養う。 主体的に問題解決に取り組むことを通して、論理的な思考力・説明力を育む。		
目指す資質・能力	知識・技能	一般教養にあたる数学の概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。	
	思考・判断・表現	身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。	
	主体的に学習に取り組む態度	どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。	
使用教科書	使用副教材 「1日10分」から始める SPI基本問題集(大和書房)		

	前 期	時間	後 期	時間
	年間学習計画	計算問題 四則演算 割合の問題 代入法の問題 割合と速さの問題 金銭問題 速さの問題 ハジキ問題 食塩水問題 グラフの問題 直線の式 放物線の式 読み取り問題	20 20 15	場合の数・確率 順列の問題 組合せの問題 確率の問題 その他 集合の問題 推論の問題 資料の読み取り 図形問題
		第1回考査	第4回考査	
		第2回考査	学年末考査	
		第3回考査		
	合 計			105

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度）		
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。	
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。	
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 1時間ごとにテーマを理解し、そのテーマを問題を解きながら確認していこう。 就職試験には問題を解くときの「速さ」と「正確さ」が大事です。常に意識して取り組もう。 		

教科	数学	科目名	探究数学	年次	3年	単位数	2	
履修区分	<input type="checkbox"/> 必修・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件					
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系	<input checked="" type="checkbox"/> 四大理系	<input type="checkbox"/> 教養	<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理	<input type="checkbox"/> 経ビ	<input type="checkbox"/> もの	<input type="checkbox"/> 全員

学習目標	数学Ⅰ・Aの基礎学力を補いつつ、大学入学共通テストなどの高度な内容に触れることで、自力で問題を解決するまで粘り強く考え続ける姿勢を育み、思考力・応用力を高める。		
目指す資質・能力	知識・技能	数学ⅠAの概念や内容を理解することで、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。	
	思考・判断・表現	身近な事象を数学化し、知識を活用して思考する力を養う。	
	主体的に学習に取り組む態度	どのような学習問題に対しても真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。	
使用教科書	使用副教材 進研WINSTEP 数学Ⅰ・A[改訂版]		

年間学習計画	前期	時間	後期	時間
	UNIT1 数と式 STEP1 BASIC CHECK STEP2 解法MASTER STEP3 模試にCHALLENGE! 第1回考査	10	UNIT5 場合の数と確率 STEP1 BASIC CHECK STEP2 解法MASTER STEP3 模試にCHALLENGE! 第4回考査	12
UNIT2 2次関数 STEP1 BASIC CHECK STEP2 解法MASTER STEP3 模試にCHALLENGE! 第2回考査	10	UNIT6 整数の性質 STEP1 BASIC CHECK STEP2 解法MASTER STEP3 模試にCHALLENGE!	10	
UNIT3 図形と計量 STEP1 BASIC CHECK STEP2 解法MASTER STEP3 模試にCHALLENGE!	10	UNIT7 図形の性質 STEP1 BASIC CHECK STEP2 解法MASTER STEP3 模試にCHALLENGE!	10	
UNIT4 データの分析 STEP1 BASIC CHECK STEP2 解法MASTER STEP3 模試にCHALLENGE! 第3回考査	8	学年末考査		
合 計			70	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	以下の観点を総合して100点満点で評点をつける。評点が25点以上を取得すること。 1 定期考査および課題（知識・技能、思考・判断・表現） 2 授業への出席や取り組む姿勢（主体的に学習に取り組む態度）	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、課題提出、アセスメント(振り返りシート)やルーブリックによる。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 授業で扱う問題は入試の基本的な問題です。解法を暗記するくらい解こう。 以下のことを意識し、自分の課題が何かを考えながら学習をすると力がついていきます。 ①STEP1、2はインプット学習です。STEP1で公式、STEP2で解法を覚えよう。基本の形なので反復が大切です。 ②STEP3、4はアウトプット学習です。インプットした公式や解法の活用の仕方を考えることが大切です。	

教科	理科	科目名	物理	年次	3年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	文理系列選択者で、2年次に「物理基礎」を修得している生徒が対象			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	物理の基本法則を学び、理解することによって、自然科学を体系的に学ぶ足がかりとし、人間の活動と自然との関わりについても関心を高める。実験や観察を通して、科学的な自然観を身につける。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目指す。		
目指す資質・能力	知識・技能	物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能(力)を身につけるようにする。	
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、自ら問いをたてて科学的に探究する力。	
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組むことで、物理的な事物・現象に主体的に関わり、試行錯誤を続けながら科学的に探究しようとする態度を養う。	
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂 物理』	使用副教材	第一学習社『セミナー物理基礎・物理』

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第1章 運動とエネルギー 平面運動・放物運動 剛体にはたらく力 運動量と力積 運動量保存の法則 反発係数 円運動 慣性力と遠心力 単振動 万有引力による運動 気体の法則 気体の分子運動 気体の内部エネルギーと仕事	50	第3章 電気と磁場 電場、電位 コンデンサー 電流と抵抗 直流回路、半導体 磁場、電流が磁場から受ける力 ローレンツ力 電磁誘導 交流、電磁波	40
第2章 波動 波の性質、干渉・反射・屈折・回折 音の伝わり方 ドップラー効果 光の性質 レンズと鏡 光の回折と干渉	30	第4章 原子 電子 光の粒子性、粒子の波動性 X線 原子の構造 原子核と放射線 核反応とエネルギー 素粒子と宇宙	20	
			合計	140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題(実験レポート)提出等による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
学習にあたっての注意とアドバイス	授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。	

教科	理科	科目名	化学(3年)	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	2年次からの「化学」の継続履修である。2年次に「化学」を履修した生徒は、必ず選択すること。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	自然の事物・現象に関することを題材にして、基本的な概念、原理、法則を理解すること。自然を構成する物質の成り立ちや性質、変化などを学ぶことにより、現代社会をより広い視野で捉え、的確な判断を下すことができるようになること。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能(力)を身につけるようにする。					
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、自ら問いをたてて科学的に探究する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組むことで、化学的な事物・現象に主体的に関わり、試行錯誤を続けながら科学的に探究しようとする態度を養う。					
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂 化学』			使用副教材	第一学習社『セミナー化学基礎・化学』		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第3章 無機物質	第1節 非金属元素の単体と化合物 希ガス・ハロゲン 酸素・硫黄・窒素・リン・炭素・ケイ素	10	第1回考査	アルコール・エーテル・アルデヒド・ケトン カルボン酸とエステル・油脂とセッケン	10
第2節 典型金属元素の単体と化合物 アルカリ金属 2族元素・アルミニウム・亜鉛 スズ・鉛	10		第4節 芳香族化合物 芳香族炭化水素 酸素・窒素を含む芳香族化合物 芳香族化合物の分離			
第3節 遷移元素の単体と化合物 鉄・銅・銀 クロム・マンガン 金属イオンの定性分析	10		第5章 高分子化合物	第1節 天然高分子化合物ー糖類 単糖と二糖、多糖	2	
第4節 無機物質と人間生活 金属・セラミックス	2	第2回考査	第2節 天然高分子化合物ータンパク質 アミノ酸・タンパク質・核酸	2		
第4章 有機化合物	第1節 有機化合物の特徴と分類 構造式の決定	2	第3節 合成高分子化合物 高分子化合物の特徴 合成繊維・合成樹脂 高機能高分子化合物 ゴム	10		
第2節 脂肪族炭化水素 飽和・不飽和炭化水素	2		合計	70		
第3節 酸素を含む脂肪族化合物	10					

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。						
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。						
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題(実験レポート)提出等による。					
	思考・判断・表現	定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。					
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。					
学習にあたっての注意とアドバイス	授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。						

教科	理科	科目名	生物	年次	3年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	文理系列選択者で、2年次に「生物基礎」を修得している生徒が対象			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	生物や生物現象に関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、生物や生物現象を科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目指す。						
目指す資質・能力	知識・技能	生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。					
	思考・判断・表現	観察、実験などを行い、唯一解がなくても科学的に最適解を判断する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組むことで、生物や生物現象に主体的に関わり、試行錯誤を続けながら科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し自然環境の保全に寄与する態度を養う。					
使用教科書	第一学習社『高等学校 改訂 生物』			使用副教材	第一学習社『セミナー生物』		

年間学習計画	前 期		時間	後 期		時間
	第1章 細胞と分子 生体物質と細胞 細胞膜の働きとタンパク質 さまざまなタンパク質の働き		20	第5章 生物の環境応答 植物の環境応答 動物の環境応答 動物の行動		23
第2章 代謝 代謝とエネルギー 炭酸同化 窒素同化 異化	第1回考査	20	第6章 生物群集と生態系 個体群と生物群集 生態系の物質生産 生態系と生物多様性	第4回考査	15	
第3章 遺伝情報の発現 遺伝情報とその発言 遺伝子の発現調節 バイオテクノロジー	第2回考査	20	第7章 生物進化 進化のしくみ 生物の起源と生物の変遷		12	
第4章 生殖と発生 有性生殖における遺伝的多様性 動物の配偶子形成 動物の発生 動物の発生における形態形成のしくみ 植物の発生	第3回考査	25	第8章 生物の系統 生物の分類の変遷と系統 生物の系統関係	学年末考査	5	
				合 計	140	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題(実験レポート)提出等による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。
学習にあたっての注意とアドバイス	授業中に基本的な事項を理解し、覚えることが大切です。そのためにも、授業に集中して取り組み、ノートをきちんととって下さい。また、定期考査には十分な準備をして臨むようにし、頭の中を整理する機会にしましょう。特に授業中に配布されたプリントは理解できるまで、何度も思考を重ねると良いでしょう。	

教科	理科	科目名	探究理科	年次	3年	単位数	2	
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	【文理】選択(大学・医療看護学校 進学希望者対象)				
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系	<input type="checkbox"/> 四大理系	<input type="checkbox"/> 教養	<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理	<input type="checkbox"/> 経ビ	<input type="checkbox"/> もの	<input type="checkbox"/> 全員

学習目標	化学基礎、生物基礎で扱う内容等を復習をしつつ、演習や実験・観察を通して、自力で問題を解決するまで粘り強く考え続ける姿勢を育み、思考力・応用力を高める。なお、大学入試にも対応できるよう基礎学力の養成を目標とする。なお、大学入学共通テストの化学・生物基礎に対しての基礎学力の養成を目指す。		
目指す資質・能力	知識・技能	化学基礎・生物基礎で扱う分野についての知識・技能をさらに深め、自力で問題を解決する力をつける。	
	思考・判断・表現	観察・実験などを行ったり、応用問題を解いたりして、知識を活用して思考する力を身につける。	
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を身の周りの生活と自ら重ね合わせ、学ぼうとする力。また、学びを自己調整する力や原因がどこにあったかを追究する自己回復力を養う。	
使用教科書			使用副教材 第一学習社『ビーライン化学基礎』 第一学習社『ビーライン生物基礎』

	前 期	時間	後 期	時間
年間学習計画	化学基礎		生物基礎	
	物質と化学反応式	10	生物の特徴	10
	化学反応式を利用した量的関係	第1回考査	顕微鏡の使用法の再確認	
	酸と塩基	10	原形質流動の観察	
	ガラス器具の取扱い		酵素のはたらき	
	中和滴定実験		遺伝子	10
	中和反応の量的関係		細胞周期の観察	第4回考査
	酸化還元反応	10	唾腺染色体の観察	
	酸化剤と還元剤のはたらき	第2回考査	転写、翻訳の過程	
	酸化還元の滴定実験		植生	10
金属のイオン化傾向、金属樹実験		木曾郡に見られる植物の分布について調査		
ボルタ電池実験		県内の他の地域と木曾郡のバイオーム比較		
電気分解実験		木曾郡の未来のバイオーム予想	学年末考査	
ファラデー定数の導出実験				
物質の構成	10			
物質の成分と構成元素				
原子の構造と周期表				
化学結合	第3回考査			
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施する定期考査を受験し、課題等の提出をすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題(実験レポート)提出等による。	
	思考・判断・表現	定期考査・課題(実験レポート)提出およびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびアセスメント(振り返りシート)やルーブリック等による。	
学習にあたっての注意とアドバイス	1・2年次に既習した内容を定着するために以下を大切にしてください。 ①授業中に基本的な事項を理解することが大切です。そのために、予習を行い自分が理解できていない点を明確にして授業にのぞむようにしましょう。②そして、その不明だった点を授業内で解消しましょう。授業を受けて分からないことがあれば、そのままにせず担当教員に声をかけ解消しましょう。③定期考査には十分な準備をして臨んで下さい。特に授業中に扱った問題は、自力で解けるようになるまで何度も挑戦しましょう。		

教科	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅲ	年次	3年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	2年次にコミュニケーション英語Ⅱを履修していること			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備	<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成する。		
目指す資質・能力	知識・技能	外国語で実際に聞くこと、読むこと、書くこと、話すことの経験を通して、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。	
	思考・判断・表現	目的や場面、状況などに応じて、外国語の知識を活用して情報や考えなどを的確に理解したり、考察の核心を伝え合ったりできるようにする。	
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組む学びの自己調整をする力と、外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
使用教科書	MY WAY English Communication Ⅲ	使用副教材	LEAP、その他

	前 期		時間	後 期		時間
	年間学習計画	Reading Skill 1			Lesson 1	
Reading Skill 2				Lesson 2		
Reading Skill 3				Lesson 3		
				Lesson 4		
			第1回考査	パフォーマンステスト		
Reading Skill 4						第4回考査
Reading Skill 5						
Reading Skill 6						
Reading Skill 7						
			第2回考査	Lesson 5		
				Lesson 6		
				Lesson 7		
			Lesson 8			
Reading Skill 8			パフォーマンステスト			
Reading Skill 9						
Reading Skill 10					学年末考査	
Reading Skill 11						
パフォーマンステスト						
		第3回考査				70
		70		合 計		140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	小テスト、定期考査、パフォーマンステストによる。
	思考・判断・表現	定期考査、パフォーマンステストとアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。 積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。 教科書の予習・復習や定期的に実施する単語テストなどに向けて、学習習慣を確立すること。 	

教科	外国語	科目名	探究英語	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	4年制大学・短期大学・医療看護専門学校等の受験において英語が必要な者			
対象者	<input checked="" type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 四大理系	<input type="checkbox"/> 教養	<input type="checkbox"/> 就職準備	<input type="checkbox"/> 文理	<input type="checkbox"/> 経ビ	<input type="checkbox"/> もの	<input checked="" type="checkbox"/> 全員

学習目標	自学が難しく、大学入試において差のつく「英作文」を中心に学習します。 ①これまで学んできた語彙力・文法力・構文力をもとに自分の「イイタイコト」を他人に伝える力を養います。 ②様々なテーマに関して、60字(英検準2級)～100字(英検準1級)レベルの自由英作文が書けるようにします。						
目指す資質・能力	知識・技能	英作文を通して、基本的な語彙や文法の習得を目指します。また、自由英作文では、自分の身の周りにある事柄に関して、SDGsの視点から世界中で起こっている問題について考えます。					
	思考・判断・表現	日本語を英語にする際、どのような表現が最適なのかという判断力を常に意識するようにします。併せて、固い日本語を平易な日本語にして、英訳する表現力も養います。					
	主体的に学習に取り組む態度	授業では、演習⇄添削⇄解説というサイクルで進めますので、進んで英語を書く姿勢が求められます。また、英作文は「瞬間英会話」でもあります。例文暗唱も含めて、初歩的な英会話ができる力も育成します。					
使用教科書	Vision Quest English Expression I Standard (啓林館)		使用副教材	共通テスト対策実力養成 重要問題演習英語 リーディングリスニング			

	前 期		時間	後 期		時間
	年間学習計画	Lesson1 文の基本		10	まとめ・総合演習	
Lesson2 文型				共通テスト リーディング 問題演習		
Lesson3 時制①				共通テスト リスニング 問題演習		
Lesson4 時制②				自由英作文(2級～準1級レベル)		
Lesson5 助動詞						
自由英作文(準2級～2級レベル)			第1回考査			第4回考査
Lesson6 受動態			15	まとめ・総合演習		10
Lesson7 不定詞				共通テスト リーディング 問題演習		
Lesson8 動名詞				共通テスト リスニング 問題演習		
自由英作文(2級レベル)			第2回考査	自由英作文(準1級レベル)		
Lesson9 分詞			15			
Lesson10 関係代名詞						
Lesson11 比較					学年末考査	
Lesson12 仮定法						
自由英作文(2級レベル)		第3回考査				
				合 計		70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	提出課題・小テスト・定期考査・アセスメント(振り返りシート)による。
	思考・判断・表現	提出課題・定期考査・アセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況・授業参加状況・提出課題・アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 辞書や使用教材のプリント等を毎時間必ず持参し、分からない事柄があれば調べる姿勢を身につけること。 積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。 世界で起きている出来事について常に関心を持つこと。 	

教科	外国語	科目名	国際文化	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員				

学習目標	日本や海外の文化に関する記事等を読んだり聞いたりすることで、文化への興味関心を高める。また、扱う題材に対する自分自身の考えを書いたり話したりできる力をつける。						
目指す資質・能力	知識・技能	扱う題材に関する語彙や、文化に関する知識を身につけるとともに、それらを用いて自分の考えを表現することができる力					
	思考・判断・表現	学んだ知識・技能をもとに、目的や場面、状況などに応じて相手に伝わりやすい表現を工夫したり、相手が伝えたいことを理解したりできる力					
	主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図る力					
使用教科書				使用副教材	Watching NEWS 2022～2023		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	Lesson 1 Professional Climber Nonaka Miho			Lesson 7 Digital Age Music Group YOASOBI
Lesson 2 18-Year-Olds Are Adults			Lesson 8 Space Travel Is Now a Reality	
Lesson 3 Qatar's Culture and Industries		第1回考査	Lesson 9 Crowdfunding	第4回考査
Lesson 4 Kudeju Furniture System		第2回考査	Lesson 10 Rabbit Island in the Seto Inland Sea	
Lesson 5 The Coldest Settlement on the Earth			Lesson 11 Climate Scientist Received Nobel Prize	
Lesson 6 Street Artist Banksy		第3回考査	Lesson 12 A Lifetime in 1.5 Billion Beats	学年末考査
		35	合 計	35 70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査、課題による。
	思考・判断・表現	定期考査、課題、パフォーマンステストによる。(スピーキング・ライティング)
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットを毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。 ・ペアワーク、グループワークではメンバーと協力し、積極的に取り組むこと。 ・積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。 	

教科	外国語	科目名	教養英語	年次	3年	単位数	3
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員				

学習目標	基本的な文法事項やリスニング力を高める学習を通して、各種検定試験に対応できる英語力を身につけることを目的とする。また、調べ学習などを通じて身近な話題から世界へと視野を広げていき、国際理解力を身につける。						
目指す資質・能力	知識・技能	外国語の語彙、文法、英語の音についてもう一度学び直し、後期の調べ学習で行う調査のための基礎となる英語力。					
	思考・判断・表現	テーマに沿った調査を行う際に、必要な情報を判断し、読みとる力。					
	主体的に学習に取り組む態度	テーマに沿った調べ学習を通して、グループ内での他者と協調する力。					
使用教科書	使用副教材 transfer 4th edition Course A(桐原書店)						

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	Unit 1～3 動詞の時制～文の種類 エッセイ、記事+表、説明文 英文を書くことに慣れよう 基本的な会話表現を学ぶ	25	Unit 10～12 関係詞～比較 エッセイ、伝記、エッセイ プレゼンテーションで用いる英語表現を学ぶ 調べ学習(1) テーマ決め・グループ決め	30
Unit 4～6 完了～受動態 エッセイ、記事+表、説明文 1パラグラフの英文を書こう 主張・提案の表現について学ぶ	15	調べ学習(2) テーマ内容の調査 調べ学習(3) 調査のまとめ 調べ学習(4) 発表 今までの学習の振り返り	第4回考査	
Unit 7～9 不定詞・動名詞～分詞 説明文、メール、ブログ エッセイを書こう 断りの表現について学ぶ	30	Unit 13～15 さまざまな文型～接続詞 エッセイ、説明文、エッセイ	40	
	第3回考査	合 計	140	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以下であること。	
修得要件	1 上記履修要件の項目を全て満たすこと。 2 実施する全ての定期考査、パフォーマンステストを受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	小テスト、定期考査、パフォーマンステストによる。
	思考・判断・表現	定期考査、パフォーマンステスト、ライティングによる英作文課題による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 辞書を毎時間必ず持参し、分からない単語があればすぐに調べること。 積極的に英語を使って自分のことを表現したり、他者のことを理解したりしようとする。 教科書の予習・復習や定期的な実施する小テストなどに向けて、学習習慣を確立すること。 	

教科	家庭	科目名	子ども文化	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備		<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの発達を理解し、子どもに関わる文化についての知識や技術を習得できる。 子どもに関わる文化の充実を図る能力と態度を身につけることができる。 子どもの健やかな発達を目指して主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。 		
目指す資質・能力	知識・技能	子どもに関わる生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解し、技術を活用できる力を養う。	
	思考・判断・表現	子どもに関わる生活を主体的に営むために、知識を活用して思考する力、根拠に基づいて理論的に改善、解決しようとする力を養う。	
	主体的に学習に取り組む態度	子どもに関わる生活を主体的に考え、学んだことが未来につながることを想像する力、周囲と協働してよりよい生活を創造するための実践的な態度を養う。	
使用教科書	子ども文化(文部科学省)	使用副教材	ニュービジュアル家庭科資料+成分表(実教出版)

	前 期	時間	後 期	時間
年間学習計画	オリエンテーション	1	子どもと文学 絵本	8
	子どもの発達 身体的発達 精神的発達	11	現代の子どもの生活と文化 テレビ・キャラクター・ゲーム 年中行事	6
	子どもと遊び 遊びと発達 遊びの現状 遊びと遊具・玩具	8	子ども文化を支える場 行政による支え 民間による支え 子どものための各種施設	8
	子どもと表現活動 造る・描く 歌う・踊る・演奏する	10	保育園実習	13
	子どもと文学 紙芝居	5		
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 考査と提出物の合計点が、年間で全体の平均の2分の1以下にならないこと。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出・実習態度による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出・実習態度およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよび生活への関心、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	欠席をしない。 自分で課題意識を持ち、毎時間の授業に集中して取り組もう。 どんな生活を作りたいか想像しながら取り組もう。 提出物は期限を守り、必ず提出する。 授業内容の定着のための努力をする。 (施設設備の都合上、実習の実施時期が変更になる可能性もある)	

教科	家庭	科目名	生活文化(学校設定科目)	年次	3年	単位数	3
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備		<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・衣食住に関わる生活文化の背景について理解できる力。 ・主体的に生活を創造するための知識や技術の習得。 ・地域の生活文化を知り、生活に活かす能力を養う。 		
目指す資質・能力	知識・技能	生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識を理解し、技術を活用できる力を養う。	
	思考・判断・表現	生活を主体的に営むために知識を活用して思考する力、根拠に基づいて理論的に改善、解決しようとする力を養う。	
	主体的に学習に取り組む態度	生活を主体的に考え、学んだことが未来につながることを想像する力、周囲と協働してよりよい生活を創造するための実践的な態度を養う。	
使用教科書	なし	使用副教材	ニュービジュアル家庭科資料+成分表(実教出版)

	前 期	時間	後 期	時間
	年間学習計画	オリエンテーション	1	地域の文化を知る
衣食住の歴史		5	作品製作	15
作品製作		25	行事食・郷土食	15
ひとり暮らしの衣食住		15	1年間のまとめ	3
合 計			105	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 評価の合計点が、年間で全体の平均の2分の1以下にならないこと。		
評価の方法	知識・技能	課題提出・実習態度による。	
	思考・判断・表現	課題提出・実習態度およびアセスメント(振り返りシート)による。	
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよび生活への関心、アセスメント(振り返りシート)による。	
学習にあたっての注意とアドバイス	欠席をしない。 自分で課題意識を持ち、毎時間の授業に集中して取り組もう。 どんな生活を作りたいか想像しながら取り組もう。 提出物は期限を守り、必ず提出する。 授業内容の定着のための努力をする。 (施設設備の都合上、実習の実施時期が変更になる可能性もある)		

教科	保健体育	科目名	体育	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input checked="" type="checkbox"/> 必履修 ・ <input type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員				

学習目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、生涯を通じて継続的に運動ができる実践力を身に付ける。		
目指す資質・能力	知識・技能	・競技に求められる運動特性などを理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける	
	思考・判断・表現	・生涯にわたって運動を豊かに継続するため、知識を活用して思考する力 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて自ら問いをたてて探求する力	
	主体的に学習に取り組む態度	・ルールやマナーを守り、学びに真摯に取り組む力 ・一人一人の違いを認め、他者をリスペクトして協働する力	
使用教科書	現代高等保健体育(大修館書店)	使用副教材	現代高等保健体育ノート(大修館書店)

	前 期	時間	後 期	時間
	年間学習計画	オリエンテーション・体ならし 体力づくり(ランニング) クラスマッチに向けて 体づくり運動 新体力テストを活用して運動計画を立てよう 選択① 男女混合選択	8	陸上競技 長距離走 球技① クラスマッチに向けて
体育理論 豊かなスポーツライフの設計 選択② 男女混合選択		7	体育理論 豊かなスポーツライフの設計 選択③ 男女混合選択	2 14
		12		
		4		
		11		
				合 計

履修要件	1 授業のルールを守り、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	・スキルテスト、ゲーム中の動き方 ・筆記テスト(体育理論)	
	思考・判断・表現	・「振り返りシート」への記入内容 ・自己や他者・周囲への気付き	
	主体的に学習に取り組む態度	・欠席、遅刻、忘れ物の回数 ・運動量 ・準備・片付け、他者との協力の様子	
学習にあたっての注意とアドバイス	・実技科目であるため、出席し、積極的に活動することが重要である。運動技能のみならず、服装や集団行動、仲間とのコミュニケーションなど総合的に評価する。 ・記載されている実施種目は、受講生の特性や新型コロナウイルスの感染拡大状況等に合わせて変更する場合がある。		

教科	保健体育	科目名	スポーツ	年次	3 年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input checked="" type="checkbox"/> 全員				

学習目標	様々なスポーツの高度な技術を身につけるとともに、社会生活においてスポーツリーダーとして活躍する資質を身につける。			
目指す資質・能力	知識・技能	・ニューススポーツ、パラスポーツを含め、様々なスポーツのルールや競技特性を理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける		
	思考・判断・表現	・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて自ら問いをたてて探求する力 ・仲間とのかかわりの中で、他者の声のすばらしさに気づく力		
	主体的に学習に取り組む態度	・ルールやマナーを守り、学びに真摯に取り組む力 ・一人一人の違いを認め、他者をリスペクトして協働する力		
使用教科書			使用副教材	

	前 期	時間	後 期	時間
年間学習計画	集団行動 整列、歩行、隊列変換の仕方 球技 馴染みのないスポーツに挑戦 (ハンドボール など) ニューススポーツ① 既存のスポーツから派生したスポーツに挑戦 (タグラグビー、ユニホック、バブルサッカー、 フロアカーリング、スポーツ鬼ごっこ など) ニューススポーツ② 新たな特性を持つスポーツに挑戦 (キンボール、アルティメット など)	70	ニューススポーツ② 新たな特性を持つスポーツに挑戦 (キンボール、アルティメット など) パラスポーツ パラスポーツに挑戦 (シッティングバレーボール、ブラインドサッカー、 ゴールボール など) 新しいスポーツを作ろう スポーツの考案、ルールブック作成	70
	合 計			140

履修要件	1 授業のルールを守り、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。		
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。		
評価の方法	知識・技能	・スキルテスト、ゲーム中の動き方 ・筆記テスト	
	思考・判断・表現	・「振り返りシート」への記入内容 ・自己や他者・周囲への気付き	
	主体的に学習に取り組む態度	・欠席、遅刻、忘れ物の回数 ・運動量 ・準備・片付け、他者との協力の様子	
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・実技科目であり、体育よりも多くの種目を扱う。得手不得手がある中で、ただ出席するだけでなく、スポーツリーダーを目指す者として、より積極的に活動することが重要である。運動技能のみならず、服装や集団行動、仲間とのコミュニケーションなど総合的に評価する。 ・記載されている実施種目は、受講生の特性や新型コロナウイルスの感染拡大状況等に合わせて変更する場合がある。 		

教科	芸術	科目名	美術Ⅲ	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	美術ⅠⅡを修得した者に限る			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養		<input type="checkbox"/> 就職準備	<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	美術の創造的な活動を通して、美的体験を豊かにし、造形的な見方・考え方を働かせ感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。美術文化を尊重し、生涯にわたり生活を豊かにする美術と関わる力を伸ばす。						
目指す資質・能力	知識・技能	美術の役割や意義を理解し、自分の価値観や美しいと感じる力に照らして作品を制作したり読み取る過程で、人間と世界についての豊かな知識と技能を身に付ける。					
	思考・判断・表現	独創的な主題を生成する経験を通して、自ら問いを立てて探究する力を養う。個性を生かして創造的に構想を練り、他者に考察の確信を伝える力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	主題に合った表現方法を工夫して、創造的に表現できるよう試行錯誤を続ける力を養う。					
使用教科書	高校生の美術3(日本文教出版)			使用副教材	なし		

	前 期	時間	後 期	時間
	年間学習計画	オリエンテーション	1	卒業制作(続き)
絵画 春をみつける(鉛筆と透明水彩で細密に描く)		4	制作 鑑賞	
グループ制作 文化祭へ向けて企画・制作する		10		
卒業制作準備 鑑賞(美術の広がりを知る) 卒業制作企画		6		
卒業制作 制作 中間発表		14		
	合 計			70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 完成した課題の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
	思考・判断・表現	授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 自分自身で考え、常により良い表現を求めて試行錯誤しよう。 上手いいかない時こそ、考えること・行動することを続けよう。 自分以外の人の表現や助言にも心を傾けよう。 作品は必ず完成させたものを提出すること。作品未提出者は、補習を行う。 制作物は展示を行います。他の人に見てもらいたいと思えるよう、こだわりをもった取り組みをしよう。 	

教科	芸術	科目名	造形	年次	3年	単位数	2	
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	美術系の進路を希望している者は履修することがのぞましい。				
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系	<input type="checkbox"/> 四大理系	<input checked="" type="checkbox"/> 教養	<input type="checkbox"/> 就職準備	<input type="checkbox"/> 文理	<input type="checkbox"/> 経ビ	<input type="checkbox"/> もの	<input checked="" type="checkbox"/> 全員

学習目標	美術系大学・短大や各種デザイン系の美術専門学校への進学者がその分野に必要な基本的知識・能力を身につける。生活と美術のつながりを理解する。						
目指す資質・能力	知識・技能	生活の中の造形的な要素や工夫を知り、正しく形を捉えて表現する活動を通して人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	生活の中の造形的な要素や工夫をみつけ、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	用途や技法に合った表現方法を工夫して、創造的に表現できるよう試行錯誤を続ける力を養う。					
使用教科書	なし			使用副教材	なし		

	前 期	時間	後 期	時間
	年間学習計画	オリエンテーション	1	[選択]
[選択] ・素描 (木炭またはえんぴつデッサン) ・模刻 (モチーフそっくりの立体を制作する) ・テキスタイル (Tシャツのデザイン・染色を行う)		30	・演習 (素描・平面構成・彫塑) ・紙工芸 (張り子のオリジナル起き上がりこぼし制作)	
[選択] ・平面構成 (矩形、直線、曲線で平面構成する) ・陶芸 (玉作り・板作り・ひもづくりで陶器を制作)		14		
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 完成した課題の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
	思考・判断・表現	授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みの様子、提出課題及びアセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・自分自身で考え、常により良い表現を求めて試行錯誤しよう。 ・上手いかわない時こそ、考えること・行動することを続けよう。 ・自分以外の人の表現や助言にも心を傾けよう。 ・作品は必ず完成させたものを提出すること。作品未提出者は、補習を行う。 ・制作物は展示を行います。他の人に見てもらいたいと思えるよう、こだわりをもった取り組みをしよう。 	

教科	音楽	科目名	音楽Ⅲ	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	音楽Ⅱを修得していること。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input checked="" type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の多様な音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	音楽と文化的・歴史的背景などとの関わりや、音楽を文化として捉え、その多様性を深く理解し、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	知識や技能を総合的に働かせながら、表現意図を明確にしたり、音楽の意味や価値を知識を活用して思考する力。音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴く力。					
	主体的に学習に取り組む態度	音楽の諸活動の中で感性を磨き、音楽文化を尊重し、学びを生かして未来の自分を創造する力。また、上手くいかない原因を追求する自己回復力を養う。					
使用教科書	Joy of Music(教育芸術社)			使用副教材	なし		

	前 期	時間	後 期	時間
年間学習計画	【歌唱】 かやの木山の 霧と話した Sento nel core(イタリア歌曲) All I Ask of You (ミュージカル『オペラ座の怪人』より)	12	【歌唱】 初恋 An Silvia(ドイツ歌曲) 合唱曲	10
	【器楽】 リコーダー合奏「間奏曲」 (オペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ』より)	8	【器楽】 篠笛	12
	【鑑賞】 ミュージカル「オペラ座の怪人」 西洋音楽	12	【鑑賞】 ポピュラー音楽・ジャズ・ロック 歌舞伎 長唄	8
			【音楽史】 ロマン派～近・現代(鑑賞に合わせて)	8
			合 計	70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての筆記試験・実技試験を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。
	思考・判断・表現	授業への取り組み(学習プリントを含む)及び、筆記試験・実技試験による。
	主体的に学習に取り組む態度	授業への取り組み及び、振り返りシートによる。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・定期考査は実施しないが、授業内で単元ごとに試験を実施する。 ・歌唱や器楽等の実技は練習を積み重ねることが大切である。欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組むこと。 ・普段から自国や諸外国の文化や歴史について関心を持ち、自身の感性を磨くこと。 	

教科	工業	科目名	実習	年次	3年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	ものづくり系列選択者			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系	<input type="checkbox"/> 教養	<input checked="" type="checkbox"/> 就職準備	<input type="checkbox"/> 文理	<input type="checkbox"/> 経ビ	<input checked="" type="checkbox"/> もの	<input type="checkbox"/> 全員

学習目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、工業の発展を担う職業人として必要な資質・能力を育成することを目指す。		
目指す資質・能力	知識・技術	安全に配慮される中で興味や関心、進路希望などに沿った実習内容に取り組み、問題解決ができる力をつける。	
	思考・判断・表現	座学での知識を活用して思考する力をつけ、さらには唯一解がなくても最適解を判断する力を身に着ける。	
	主体的に学習に取り組む態度	製作をする上で困難があった場合に試行錯誤を続ける力や学びに真摯に取り組む力をつける。	
使用教科書	新版機械実習(実教出版)		使用副教材 自作プリント

	前 期	時間	後 期	時間
年間学習計画	オリエンテーション		PIC応用	
	実習の心構え	2	PICによる電子回路制御	15
	整流平滑回路		3D CAD	
	整流と平滑について	7	3D CADについて	2
	電源回路の基礎知識を学ぶ	7	3D CADソフトを利用した機械製図	13
	レーザー加工機			
	レーザー光を利用した機械工作	14		
	溶接			
	溶接の方法と安全について	2		
	アーク溶接	12		
	安定化電源装置製作			
	安定化電源装置の製作	17		
	総合機械実習			
	旋盤、フライス盤を用いて課題製作	17		
自動加工機				
自動加工機を利用した切削加工	17			
リレーシーケンス				
シーケンス制御について	3			
シーケンス図について	5			
ラダー図について	7			
			合計	140

履修要件	1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受検し、課題等の提出を期限内に行うこと。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技術	作品の完成度、レポートなどで知識・技術を評価する。
	思考・判断・表現	レポート提出時の口頭試問など思考・判断・表現を評価する。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、実技への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に授業へ取り組むことが重要です。 毎時間ごとに実習が進んでいくので、欠席した場合には、次の授業までに追実習を受けるように申し出ること。 全ての実習に出席し、レポートが期限までに提出されることで成績が認定される。 	

教科	工業	科目名	製図	年次	3年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	ものづくり系列選択者で、継続して系列選択する者			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	日本産業規格及び工業の各分野の製図に関する知識と技術を習得し、各種図面の内容を正しく読め、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技能	教科書や検定受験に向けた学習を通して、手書き製図について豊かな知識を身に付ける。また、2DCADおよび3DCADに関する知識や製図する豊かな知識と技術を身に付ける。					
	思考・判断・表現	知識を活用して、他者に考察(アイデア)の核心を伝える力を育てる。					
	主体的に学習に取り組む態度	製図に関する学びに真摯に取り組む力を育てる。					
使用教科書	製図(実教出版)			使用副教材	基礎製図検定問題集(全国工業高等学校長協会)		

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	製図の基礎 製図を学ぶにあたって 製図用具 線(種類、用法) 図面に用いる文字 投影法 第1回考査	6	図面の表し方 大きさの表しかた 平面曲線の表しかた 特殊な寸法の記入 表面粗さなどの状態の表しかた 公差の表しかた 幾何公差 第4回考査	16
手書き製図の基礎 立体を平面で表す方法 平面を立体で表す方法 投影図の不足線の追記 簡単な断面図の書き方 補助投影図の書き方 展開図 第2回考査	42	CAD製図 CADシステム 二次元CAD 三次元CAD CADシステムの利用	30	
基礎製図検定の対策と受験 対策 基礎製図検定を受験する 第3回考査	46			
			合 計	140

履修要件	1. 指定する教材やタブレットを持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記の履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受験し、課題の提出を期限内に行うこと。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査および課題提出による。
	思考・判断・表現	課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み(態度)、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	・授業時数が多くなるので、欠席した場合には、次の授業までに課題ができるよう行動すること。 ・提出期限に作品が間に合わなかった場合には、その単元の評価はできないので、十分に注意する事。	

教科	工業	科目名	機械設計	年次	3年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	ものづくり系列選択者			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input type="checkbox"/> 経ビ ・ <input checked="" type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	工業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うなどを通して、器具や機械などの設計に必要な資質・能力を育成することを目指す。		
目指す資質・能力	知識・技術	機械設計について機械に働く力、材料及び機械装置の要素を踏まえて理解するとともに、関連する技術力を養う。	
	思考・判断・表現	知識を活用して思考する力。	
	主体的に学習に取り組む態度	学んだことが未来につながることを想像する力。	
使用教科書	機械設計1(実教出版) 機械設計2(実教出版)		使用副教材 自作プリント

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第1章 機械と設計			環境に配慮した設計
機械のしくみ		3	第5章 ねじ	
機械設計		3	ねじの用途と種類	4
第2章 機械に働く力と仕事			ねじに働く力と強さ	第4回考査 6
機械に働く力		12	第8章 リンク・カム	
運動	第1回考査	8	機械の運動	1
力と運動の法則		4	リンク機構	6
仕事と動力		4	カム機構	4
摩擦と機械の効率		6	間欠運動機構	2
第3章 材料の強さ			第9章 歯車	
材料に加わる荷重	第2回考査	2	歯車の種類	1
引張・圧縮応力		8	回転運動の伝達	3
せん断荷重		6	平歯車の基礎	6
温度変化による影響		4	平歯車の設計	8
材料の破壊		4	その他の歯車	3
はりの曲げ	第3回考査	12	歯車電動装置	学年末考査 3
ねじり		4		
座屈		4		
第4章 安全・環境と設計				
安全・安心と設計		4		
倫理観を踏まえた設計		1	合計	140

履修要件	1. 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2. 欠課時数が年間授業数の1/5以内であること。	
修得要件	1. 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2. 実施するすべての定期考査を受検し、課題等の提出を期限内に行うこと。 3. 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技術	定期考査・課題提出およびルーブリックによる。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出・アセスメント(振り返りシート)およびルーブリックによる。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組み、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の授業において、ノートをしっかりと取り内容について理解をすること。 ・課題をよく確認し、繰り返し演習すること。 	

教科	商業	科目名	財務会計 I	年次	3 年	単位数	6
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者で、2年次に「原価計算」を履修していることが望ましい。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	財務諸表の作成に関する知識と技術を習得し、財務会計の意義や制度について理解するとともに会計情報を提供し、活用する能力と態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	株式会社における簿記を学び、人間と世界についての豊かな知識と技能を身につける。					
	思考・判断・表現	会計処理の手法や会計制度および法の理解し、知識を活用して思考する力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	学習内容を社会の動きと自ら重ね合わせ、学びに真摯に取り組み、試行錯誤を続け、自己調整する力を養う。					
使用教科書	新財務会計 I (実教出版)		使用副教材	最新段階式 簿記検定問題集 全商1級会計(実教出版)・全商簿記実務検定模擬試験問題集 1級会計(実教出版)			

年間学習計画	前 期	時間	後 期	時間
	第1編 財務会計の基礎 企業と会計 企業会計制度と会計法規	5	第3編 損益計算書 損益計算書のあらまし 損益計算の意味と基準	50
第2編 貸借対照表 貸借対照表のあらまし 資産の意味・分類・評価 流動資産(当座資産) 流動資産(棚卸資産・その他の流動資産)	105	売上高 売上原価、販売費および一般管理費 営業外収益・営業外費用 特別利益・特別損失 損益計算書の作成	第3回考査	
固定資産(有形固定資産) 固定資産(無形固定資産) 固定資産(投資その他の資産) 負債の意味と分類 流動負債 固定負債 純資産の意味と分類 資本金 資本剰余金 利益剰余金 自己株式 貸借対照表の作成	第2回考査	第4編 財務諸表の活用 財務諸表のディスクロージャー 財務分析	20	
		第5編 連結財務諸表 連結財務諸表のあらまし 連結財務諸表補作成(1) 連結財務諸表補作成(2)	30	
		第4回考査		
		学年末考査		
		合 計	210	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・毎時「これが分かった」を重ねよう。 ・全商簿記実務検定試験1級会計も受験します。知識の定着と検定試験の合格を目指そう。 	

教科	商業	科目名	ビジネス情報	年次	3年	単位数	4
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者の必修科目です。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系		<input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備	<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員			

学習目標	ビジネスに関する情報を適切に管理し、分析し、活用する知識と技術を習得させ、コンピュータを活用する事の重要性について理解するとともに、業務を積極的に合理化し、自動化する能力と態度を育てる。						
目指す資質・能力	知識・技能	情報通信ネットワークを理解し、表計算ソフトウェアやデータベースソフトウェアを活用し、効果的に処理する力。					
	思考・判断・表現	情報を収集し・処理し・伝達する事を中心に、コンピュータを使えるだけでなく、効果的に整理・表示する力。知識・技能を地域・自己の課題と結びつけ、最適解を判断する力。					
	主体的に学習に取り組む態度	情報の収集・処理を適切に行い、データをもとに分析する能力を育む。更に、実社会で求められる処理結果を自ら考え表現しようとする態度。					
使用教科書	ビジネス情報(実教出版)			使用副教材	全商情報処理模擬試験問題集2・1級(ビジネス情報編)等		

	前 期		時間	後 期		時間
	年間学習計画	1. ビジネスと情報			オペレーションズサーチの基礎	
情報社会とビジネス			6	ビジネス計算		13
ネットワークとビジネス			6	手続きの自動化	第4回考査	12
2. 情報通信ネットワークの活用				4. データベースのソフトウェアの活用		
ネットワークの基礎		第1回考査	10	ビジネス情報とデータベース		12
ネットワークの管理と構築			11	データベースの利用		12
サーバ管理		第2回考査	11	SQLの操作	学年末考査	11
セキュリティ管理			11	全商情報処理検定		
3. 表計算ソフトウェアの処理						
集計処理		第3回考査	13	全商情報処理検定		
合 計						140

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。						
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。						
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。					
	思考・判断・表現	定期考査・課題提出およびアセスメント(振り返りシート)による。					
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業への取り組みおよびニュースへの関心、アセスメント(振り返りシート)による。					
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・毎時「これが分かった」を重ねよう。 ・各種情報処理検定の合格を目指します。検定試験は、日曜日に実施されます。必ず受験するようにしてください。 						

教科	商業	科目名	広告と販売促進	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者は必履修科目です。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	広告や販売促進などに関する知識と技術を習得し、企業と消費者間のコミュニケーション活動の意義や役割について理解させるとともに、販売に関連する活動を主体的、創造的に行う能力と態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	広告の制作、店舗設計、商品陳列、接客などに必要な態度を学ぶことにより、人間と世界についての豊かな知識と技能を習得する。					
	思考・判断・表現	学んだ知識を活用して思考する力をつけ、人をひきつける広告デザイン力を養う。					
	主体的に学習に取り組む態度	学びに真摯に取り組み、他者と連携して積極的に学ぼうとする力。学びを自己調整する力や試行錯誤を続ける力を養う。					
使用教科書	広告と販売促進(実教出版)			使用副教材			

	前 期	時間	後 期	時間	
年間学習計画	第1章 販売促進 第1節 販売促進の概要 第2節 消費者行動の理解 第3節 販売促進の戦略と具体的活動	10	第4章 店舗の立地と設計 第1節 店舗の立地 実習2 立地分析 第2節 店舗の設計 第3節 商品の棚割と陳列 ディスプレイの種類	7	
	第2章 広告 第1節 広告の概要 第2節 広告計画の手順と内容 広告デザインの技法 実習1 広告計画の立案と広告制作	15	実習3 店舗分析 POP広告のデザイン 実習4 POP広告の制作	15	
	第3章 広報 第1節 広報の概要 第2節 広報の具体的活動 第3節 効果的な広報	10	第5章 販売員活動 第1節 販売員活動の概要 第2節 販売員活動の方法 接客の心構えと敬語 販売ロールプレイング	5	
			商品開発実習(POP広告、広報、広告制作)	8	
			合 計	70	

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・ワークシート(課題)、実習およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業・実習への取り組み(グループワーク及びディスカッション他)、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・毎時「これが分かった」を重ねよう。 ・グループワークやディスカッションにおいて積極的に自分の意見を伝えよう。 	

教科	商業	科目名	商品開発	年次	3年	単位数	2
履修区分	<input type="checkbox"/> 必履修 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 選択		選択条件	経営ビジネス系列選択者は必修科目です。			
対象者	<input type="checkbox"/> 四大文系 ・ <input type="checkbox"/> 四大理系 ・ <input type="checkbox"/> 教養 ・ <input type="checkbox"/> 就職準備		<input type="checkbox"/> 文理 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 経ビ ・ <input type="checkbox"/> もの ・ <input type="checkbox"/> 全員				

学習目標	商品開発に関する基礎的な知識と技術を習得し、顧客(消費者)満足を実現することの重要性を理解するとともに、商品を企画・開発し流通活動を行う能力と態度を養う。						
目指す資質・能力	知識・技能	企業における事例など実際の商品開発と関連付けて考え、人間と世界についての豊かな知識と技能を養う。					
	思考・判断・表現	知識を活用して思考する力、唯一解がなくても最適解を判断する力により、商品の企画・開発を行う。					
	主体的に学習に取り組む態度	グループの中において学びに真摯に取り組む力と学びを自己調整する力、他者をリスペクトして協働する力を養い、企画・開発に対して自己調整力を持ち学ぶ。					
使用教科書	商品開発(実教出版)			使用副教材			

	前 期		時間	後 期		時間
	年間学習計画	第1章 商品と商品開発	第1節 商品の多様化 第2節 商品開発の意義と手順	10	第4章 商品開発とデザイン	第3回 考査
第1節 デザインの基礎						
第2節 パッケージデザイン						
第3節 グラフィックデザイン						
第2章 商品の企画		第1節 環境分析 第2節 商品開発の意思決定と開発テーマの決定 第3節 市場調査 第4節 商品コンセプトの立案と商品企画所の作成	15	第7章 総合実習	20	
第1節 商品の開発						
第1節 商品の詳細と詳細設計						
第2節 試作品の作成と評価						
第2節 試作品の作成と評価		第3節 開発商品のテスト 第4節 事業計画の立案	15	①テーマに沿った商品の開発		
第3節 商品の開発						
第1節 商品の詳細と詳細設計						
第2節 試作品の作成と評価						
第3節 開発商品のテスト			②パッケージデザイン			
第4節 事業計画の立案			③企画商品発表(プレゼンテーション)			
			④販売実習			
※高校生ビジネスアイデア甲子園への応募						
合 計						70

履修要件	1 指定する教材を持参し、意欲的に授業に参加すること。 2 欠課時数が年間授業時数の1/5以内であること。	
修得要件	1 上記 履修要件の項目を満たすこと。 2 実施するすべての定期考査を受験し、課題等の提出を期限内にすること。 3 年間評価が10段階で「2」以上であること。	
評価の方法	知識・技能	定期考査・課題提出による。
	思考・判断・表現	定期考査・ワークシート(課題)、実習およびアセスメント(振り返りシート)による。
	主体的に学習に取り組む態度	出席状況、授業・実習への取り組み(グループワーク及びディスカッション他)、アセスメント(振り返りシート)による。
学習にあたっての注意とアドバイス	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席をせず、毎時間の授業に集中して取り組もう。 ・ビジネスを学ぶ者として、身だしなみを整えて授業に臨もう。 ・毎時「これが分かった」を重ねよう。 ・グループワークやディスカッションにおいて積極的に自分の意見を伝えよう。 	